

令和元事業年度の業務実績に関する  
評価委員会における提言

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る令和元事業年度の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、下記のとおり取りまとめた。

## 記

### 【教育】

- 海外からの学生の派遣や受入者数が少ない点について、抜本的な改革が望まれる。例えば、若い教授や准教授、助教で国際化を促進するための特別委員会を設置し、どうすればアジアを始め世界から多くの大学院生が集まるのか討論するための体制を構築することを検討されたい。
- 基礎配属期間を1年間に延長したが、教員の負担が懸念される。期間延長について、効果検証を行うとともに、論文数の少なさの一因となっていないかなど、その影響を確認することにより、適切な期間設定を検討されたい。

### 【診療】

- 紀北分院について、一部先進医療を導入することにより、分院の特徴がより多様性を持ったと考える。今後は、地域医療において全国に発信できるようなユニークな診療に取り組むことを検討されたい。

### 【国際化】

- 国際学会での発表を、積極的に推進する必要がある。若手研究者の留学を積極的にサポートする fellowship（奨学金）の創設等を検討されたい。

### 【業務運営】

- 働き方改革について、業務の効率化を現場のスタッフ等を交え、多職種間で検討し、具体的な対策を取ることにより、結果として時間外勤務の低減につなげることが求められる。そのためには、働き方改革を議論するための委員会の設置などが考えられるので検討されたい。

- 新型コロナ対策の一環として在宅勤務が増加すると予測されるので、RPAの手法（注釈）を使った事務の効率化・合理化が求められる。特に膨大な量の反復作業の処理との相性が良いとされるため、RPAの導入について検討されたい。

（注釈）：RPAとはロボティック・プロセス・オートメーションの略。データ入力や請求書作成、経理などの定型作業を専用ソフトウェアの力を使って自動化することである。デジタルレーバー（仮想的労働者）とも呼ばれ、自動化の過程に人工知能（AI）が活用されることもある。

#### 【財務】

- 一般的に、日本の大学で生まれる発明が、一定の収益につながっていないと指摘されている。事実、特許1件あたりのライセンス収入は米国の22分の1程度である。学術活動やその成果を経済的に適正に評価・活用できなければ人材が流出し、研究の土壌が痩せ細る悪循環が懸念されるため、今後、必要となる対策を検討されたい。

#### 【情報発信】

- キャンパス・カミングデーの創設など、大学の基礎研究再興に向けて、国内外における大学OBに対する情報発信に取り組むことを検討されたい。